

地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成 16 年度より、すべての市立学校で学校評議員制度を導入し、校園長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施してきました。現在、幼稚園においては学校評議員を、市立小学校・中学校・高等学校等学校においてはコミュニティ・スクールとして学校運営協議会をそれぞれ設置し、地域とともに学校運営について考え歩む取組を進めています。

学校評価に関しては、平成 19 年 6 月の学校教育法、同年 10 月の学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が設けられています。このことを受けて、各学校園では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするとともに、明らかとなった課題についての改善を図っています。

ここに、令和6年度の各学校園における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各学校園では、この報告書を参考にするとともに、学校園・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営に向けて取組を実施し、開かれた学校、地域から信頼される学校となるよう努めてまいります。

令和7年 12 月
奈良市教育委員会

内容

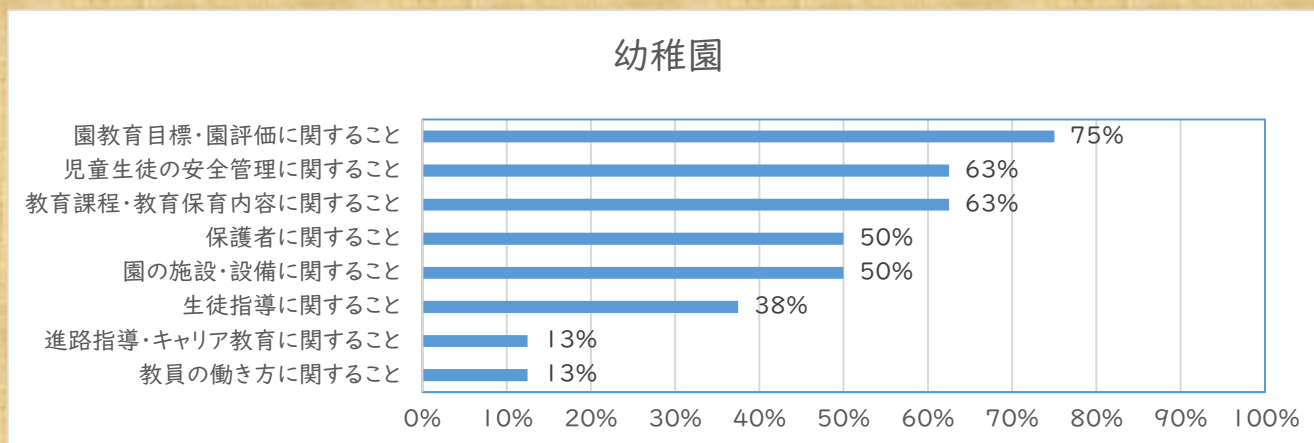
1 学校評議員制度の活用（幼稚園のみ）	
【学校評議員 役職の内訳】	2
【園長が学校評議員に求めた意見の種類】	2
【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に生かされた例】	2
2 学校評価の実施について	
【学校評価を進める仕組みの有無】	3
【学校評価に基づく改善方策の検討を行う体制】	3
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】	3
【学校関係者評価について】	3
【学校評価の結果の公表について】	4
3 学校評価の実際について	
【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】	5
【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題】	6
【学校評価の結果から見てきた課題に対する対応】	7
【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題の具体的解決策の例】 ..	8
4 学校評価と学校ビジョン	
【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】	9

【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	人数
PTA関係	12人
民生関係	6人
自治会関係	1人
各種協議会	2人
少年指導協議会	1人
地域活動関係	2人
社会福祉協議会関係	3人
合計	27人

※小学校・中学校・高等学校等学校では、学校評議員に代わって学校運営協議会を設置しています。

【園長が学校評議員に求めた意見の種類】



【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に生かされた例】

- 学校の環境整備（主に雑草の処理）の困難さから、地域の方の協力を得る体制の検討につながり、評議員会での要請により、地域教育協議会の方を含めた地域の方の協力を得て、園庭の草引きや防草シート張りを実施できた。
- 地域の自主防災の協力により、園児の安全教育教室を実施した。
- 在園児数の減少という実態と「人との関わりを通じた経験をさせたい」という教育ビジョンを会議で共有し、地域の方の協力を得て、新たに地域の方と関わる機会や、地域の方の教育力を活かした活動を企画・実施することで、貴重な経験ができた。
- 「地域と園児のつながる機会を増やしてほしい」という意見を地域教育協議会で共有し、運動会に地域の方を招待し一緒に行う取組を作った。

学校評議員会を通じ、環境整備の困難や園児減等の様々な課題を共有し、地域の方の協力体制を確立し、環境整備の支援や安全教育、貴重な体験活動を実現させていると考えられます。

2 学校評価の実施について

【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
学校評価を行う校内の委員会を組織している。	12.5%	87%	86%	78%
学校評価を行う校内の委員会を組織していない。	87.5%	13%	14%	22%

【学校評価に基づく改善方策の検討を行う体制】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
全教職員参加の体制で行っている。	50%	64%	68%	57%
主に担当者が行っている。	50%	36%	32%	43%

【外部アンケート(児童生徒・保護者等を対象としたアンケート)の実施割合】

	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
年に1回実施	100%	92%	95%	94%
年に2回実施	0%	8%	5%	6%
実施していない・その他	0%	0%	0%	0%

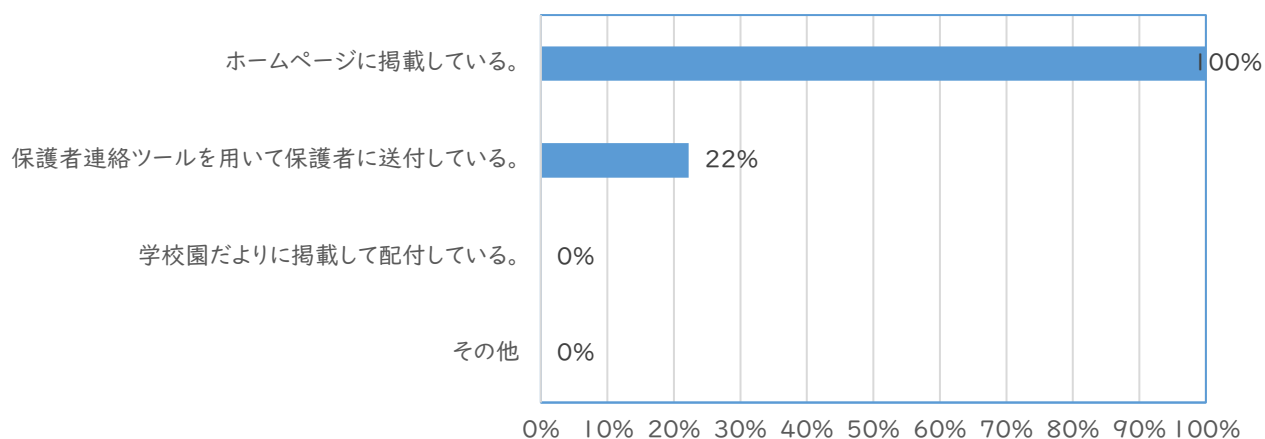
【学校関係者評価について】

	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。	63%	56%	64%	59%
学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。	88%	62%	73%	68%
評価はアンケート形式で回答を求めている。	38%	18%	9%	17%
評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。	38%	33%	32%	33%

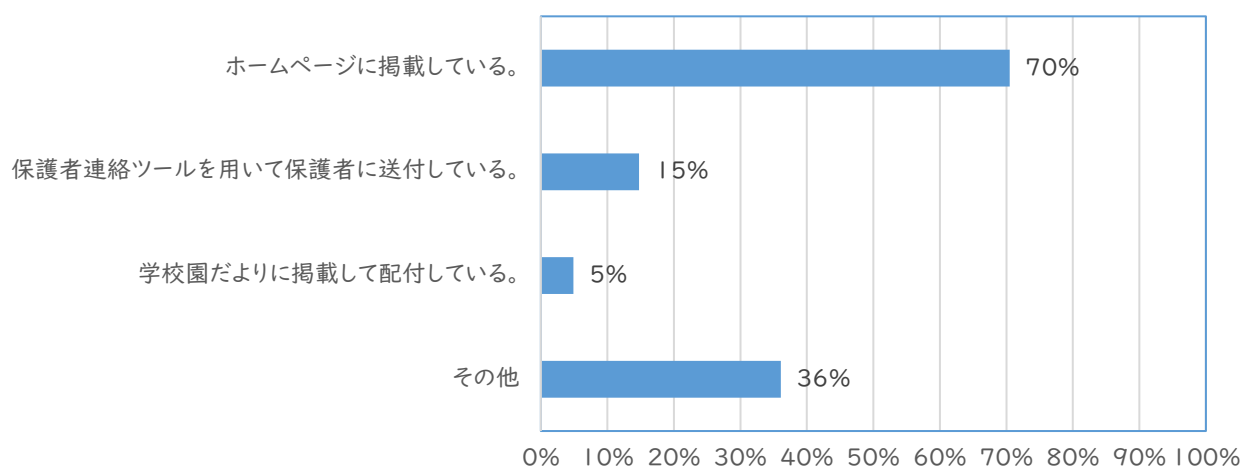
ほとんどの学校・園ともに、外部アンケートを年に一回以上実施していることから、外部からの評価を重視する姿勢が浸透していると考えられます。

【学校評価の結果の公表について】

幼稚園



小学校・中学校・高等学校



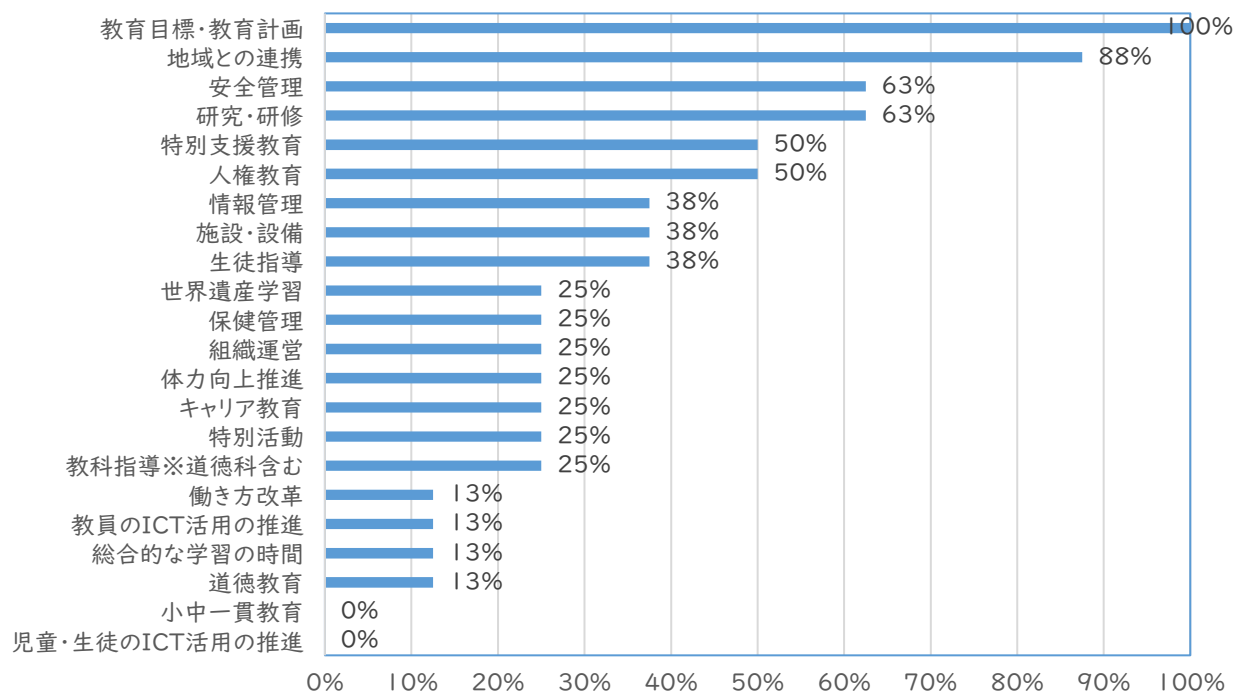
幼稚園では、ホームページに掲載している園が 100%であり、保護者連絡ツールを用いて保護者に送付している園は 22%です。

小学校・中学校・高等学校における学校評価の結果の公表方法について、ホームページに掲載している学校は 70%で最も高い割合を占めます。この次に多い方法は、保護者連絡ツールを用いて保護者に送付しており、その割合は 15%です。また、小学校・中学校・高等学校の「その他」では、PTA総会での説明、学校運営協議会委員への説明などが挙げられていました。

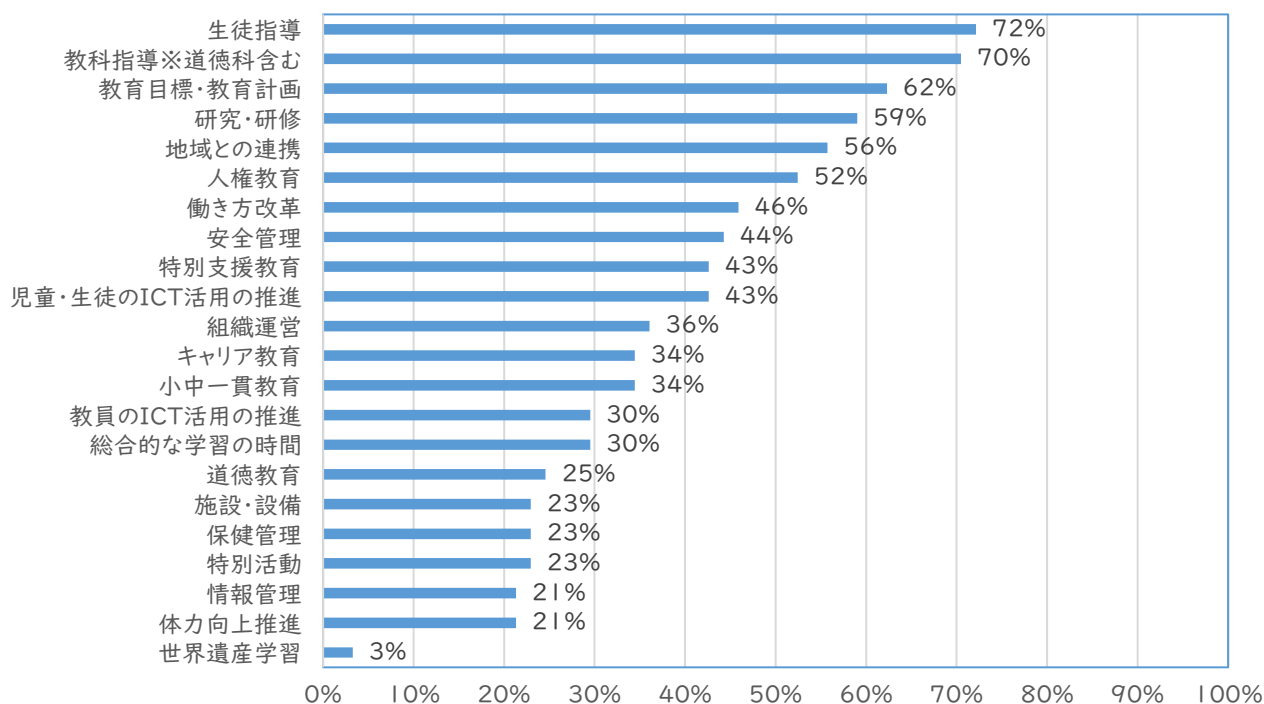
3 学校評価の実際について

【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】

幼稚園

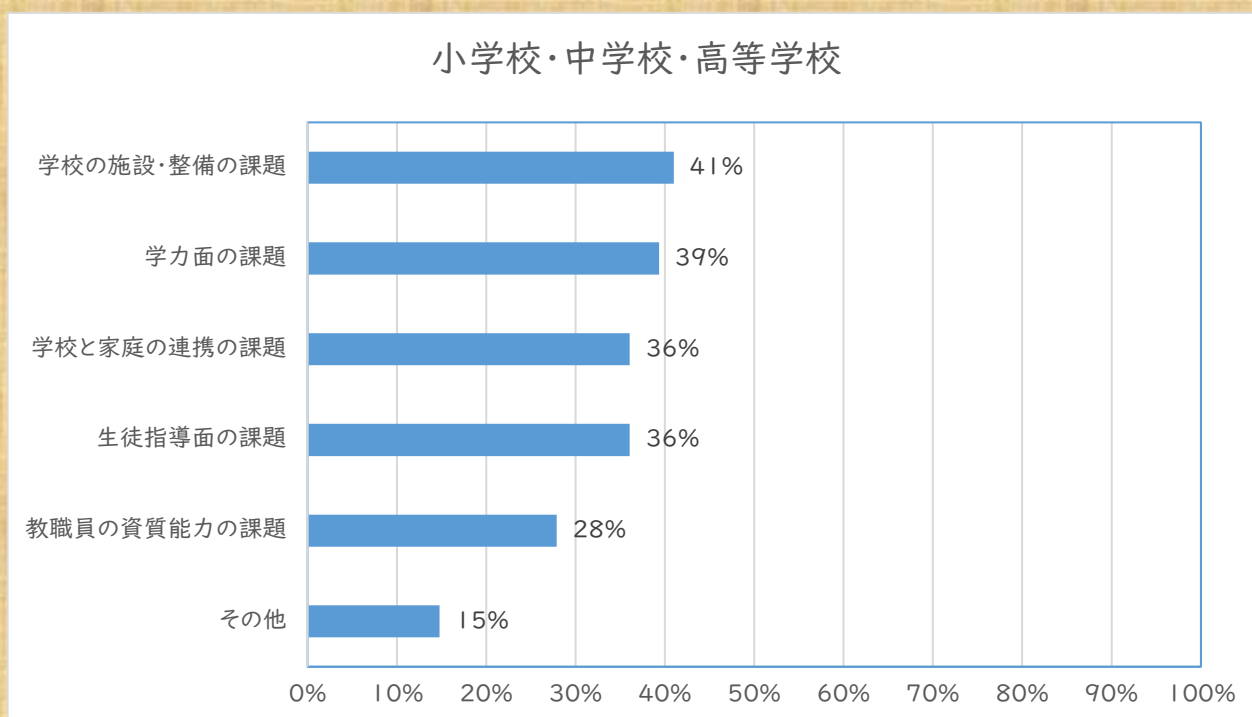
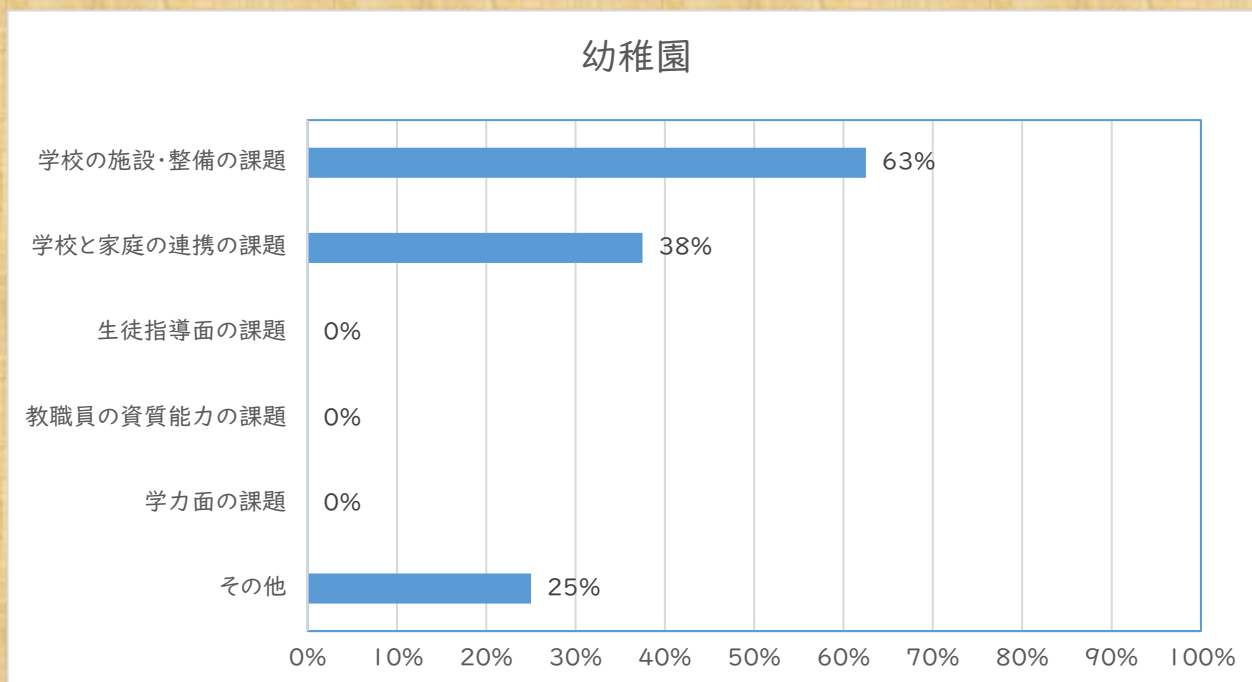


小学校・中学校・高等学校



共通して重視されている項目としては、「教育目標・教育計画」と「地域との連携」が挙げられます。「教育目標・教育計画」は幼稚園で 100%、小学校・中学校・高等学校で 62%が重点目標として設定しています。「地域との連携」は幼稚園で 88%、小学校・中学校・高等学校で 56%が重点目標として設定しています。

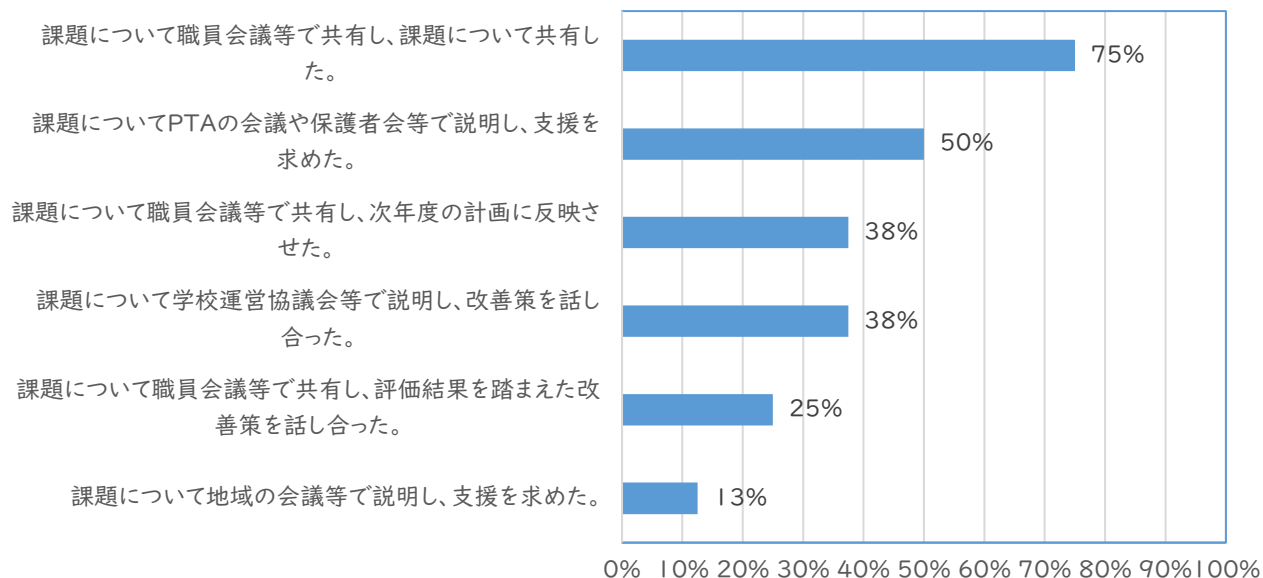
【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題】



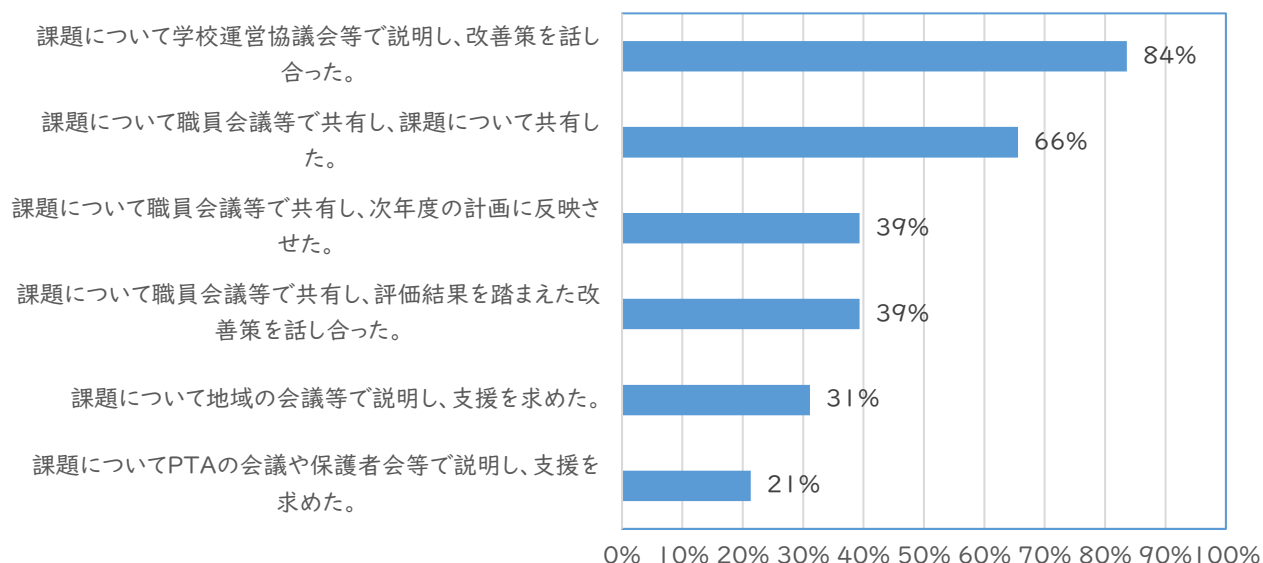
学校園経営上の課題について、幼稚園と小学校・中学校・高等学校の双方で、「学校の施設・整備の課題」（幼稚園 63%、小学校・中学校・高等学校 41%）と「学校と家庭の連携の課題」（幼稚園 38%、小学校・中学校・高等学校 36%）が共通の課題として指摘されていることが分かります。

【学校評価の結果から見てきた課題に対する対応】

幼稚園



小学校・中学校・高等学校



幼稚園では、「課題について職員会議等で共有し、課題について共有した。」が75%で最も多く実施されています。また、「課題についてPTAや保護者会に説明し、支援を求めた。」割合も50%となっています。

一方、小学校・中学校・高等学校では、「課題について学校運営協議会等で説明し、改善策を話し合った。」が84%で最多の対応です。さらに、「課題について職員会議等で共有し、課題について共有した。」割合が66%と高い傾向が見られます。

【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題の具体的解決策の例】

〔学校園と家庭の連携に関すること〕

- 生徒の学習意欲を高く持たせるためには、自己肯定感を高めるだけでなく、安全欲求・生理的安心欲求が家庭で満たされている必要がある。家庭の意識改革のために家庭や小中はもちろんのこと、こども園とも課題を共有し、一体となった取り組み(子どもの居場所づくり)を行う。
- 実践課題および重点目標「家庭や地域との連携」において、積極的な情報発信を HP、通信のみならず参観(フリー参観)や学校行事の機会を利用して行う旨の表記をする。

〔施設・整備に関すること〕

- 放課後の遊び場の確保について話し合い、週1回の「校庭開放」の取組につながった。
- 読解力が大切という意見により、図書館整備を行った。

〔生徒指導に関すること〕

- 校区児童の安全確保に向けた取組を、地域教育協議会で見守り活動として行った。
- 校区内の危険箇所について共有することができた。また、本校の取り組みである学び合い活動についての共通認識ができた。
- 学校運営協議会の支援を受けて、不登校児童保護者支援の体制を設けられた。

〔学力に関すること〕

- 学校運営協議会の家庭学習の定着という意見より、地域教育協議会で学習ソフトの検討を行った。
- 授業改善は効果があるという意見により、研究授業・研究討議参加を行った。
- キャリア教育は大切という意見により、全学年におけるキャリア教育の協働を行った。
- 学習活動の補助をという意見から、運営委員会の地域コーディネーターのお力により授業補助の地域ボランティアを活用できた。
- 学校教育目標や教育課程に沿った新たな教育活動の創設につながった。(探究学習発表会など)
- 学校運営協議会で、学力に課題を抱える子どもたちへの手立てを小学校で取り組めないかという意見が出ました。そこで、来年度に学校運営協議会の新規事業として、放課後学習に取り組む予定で、現在準備を進めている。

4 学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】

- 地域の学校教育に対する関心が少しずつ高まってきていることから、支援ボランティアの組織化を図り、効果的効率的な教育を進めていく。
- 基礎的基本的な学力の向上を図るために、読書活動を推進していく。
- 保幼小中の具体的な連携活動を活性化させ、連携を密にしていくことで、児童生徒への理解がより一層深まることで、児童生徒の将来の成長につなげていく。
- 本年度の反省を踏まえグループ担任制を充実させていく。
- 主体的で対話的な授業力の向上に向けた研修の充実をより一層進める。
- より個別最適な学びを進めるための方法を取り入れるなど、新しい教育活動の導入を進める。
- 家庭の意識改革のために家庭や小中はもちろんのこと、こども園とも課題を共有し、一体となった取り組み(子供の居場所づくり)を行う。
- 家庭学習の定着を図るために、小中連携して課題を共有し主体性を育む学習内容を共同で作成していく。
- 積極的に地域に働き掛け、創意工夫がある教育活動を実施していけるよう改善をしていく。
- 授業改善の継続をするとともに、研修等による教員の資質向上、課題に対して情報共有とチーム力の向上を図る職場の雰囲気作りを教職員と共有し、保護者や地域へ取組の発信をしていく。
- めざす子どもの姿に対して取組の重点を設定していたが、さらに具体的な取組を盛り込み、取組の目的をよりはっきりと示す。
- 不登校と働き方改革を学校経営方針の項目の上位にあげる。
- 授業改善や学習指導の充実について、更なる向上が求められると考えられる。教職員の研修を充実させ、授業力向上を図るとともに、児童一人ひとりの学習状況を把握し、きめ細かな学習指導を進めていけるようにしていく。
- 小中の連携の具体策を小中で話し合い、詳細を学校ビジョンに反映させる。
- 人権教育を中心に据え、異学年交流などつながりを意識した学校の取組を考えていく。